



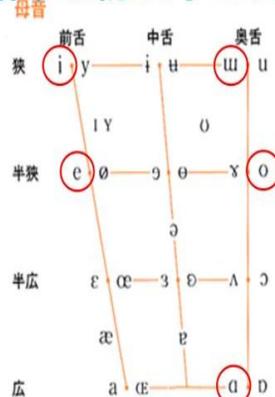
偉人の言葉

自分のやりたいことができなければいけない。『できる』というのは資質が半分、とことんのめり込んで努力することが半分だ 根岸 英一(ノーベル化学賞受賞者)

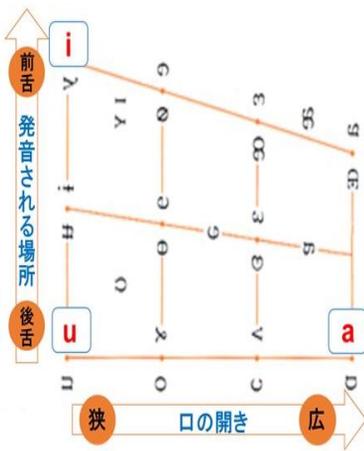
第42回全国高等学校総合文化祭・2018信州総文祭 自然科学部門に出場！  
文化連盟賞を受賞しました！！

平成30年8月7日(火)～8月8日(水)に、諏訪東京理科大学(茅野市)で第42回全国高等学校総合文化祭・2018信州総文祭自然科学部門に、SS物理クラブの3-4-12島袋航弥さん、3-1-21城間未唯さんに出場しました。指導された先生は、球陽高校物理教諭の上江洲陽先生です。題目は「物理的観点による沖縄方言と標準語の母音の比較2 ～後世に残す沖縄方言～」です。この研究は、継続研究である、前年度同様に「母音/a/,/i/,/u/は沖縄方言と標準語でわずかだが違いがあり、話者が使い分けている」ことを検証できたものです。また、音韻的に変化してできた沖縄方言の母音/i/,/u/は、ももとの沖縄方言の母音/i/,/u/とは違う音であり、変化してできた母音/i/,/u/の方がはっきりと発音されていることがわかり、さらに、自分たちで意識して単語を発音することで、話者が無意識に使い分けている音声の違いを母音/a/のみだが再現できたというものです。

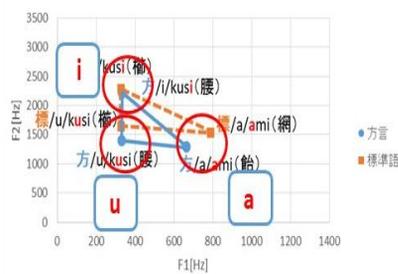
言語学と物理学の対応



反転して回転



方言と標準語の母音/a/,/i/,/u/の平均分布図(1型)



配置が基本母音図(左図)と対応  
F1→くちの開き  
F2→調音位置

図 物理的観点による沖縄方言と標準語の母音の比較2 ～後世に残す沖縄方言～  
沖縄県立球陽高等学校 SS物理クラブ 島袋航弥 城間未唯 仲村春乃 銘苺紗也

参加した生徒からのメッセージ

3-1 城間 未唯さん

研究を論文レポートにまとめることや発表練習はとても大変で、嫌になる時もありましたが、その分完成した時の喜びや達成感はいけりなものでした。研究は楽しいことだけじゃなく、辛いこともたくさんありますが、その体験の1つが自分も成長させてくれるものになったし、今では、とてもかたくなに思っています。校外、県外での大会や研修で、かなり良い刺激ももらえるので、チャンスがあればぜひ挑戦してほしいです。上を目指してがんばってください！

3-4 島袋 航弥さん

研究をしていく上で楽しかったことは出た結果に対して考察をすることでした。おもしろい結果が出なくてもなぜそのような結果が出るのかを考えることで、新しいことがわかってきてそこが楽しかったです。苦しかったことは論文を書くこと、データ数が少ない中で、考察を一般化するってした。論文をまとめるのはおもしろいよりも時間がかかり、何度も直しをするのが大変でした。私たちの研究では人の声があつた、一般の方に協力をお願いしていたためデータをすぐとるというわけにはいかず、研究を次に繋げていくことが大変でした。大会に出た人に伝えるということはとても楽しく、意見を交換したりすることで自分の視野が広がりました。研究をして終わってばかりに悩むことなく目標に向けて頑張ってください。目標の中に物理準備室の前にある材料室に...

